

開催日 2011年5月12日(木)

場 所 グラントウキョウ ノースタワー 18階ホール

PASSION
FOR THE
BEST

大和証券グループ 2011年度 春季 経営戦略説明会

株式会社大和証券グループ本社
執行役社長 日比野 隆司

Daiwa Securities Group

本資料は、2010年度の業績および今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2011年5月12日現在で公表可能な情報に基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

大和証券グループ 2011年度 春季 経営戦略説明会

目次

I. 業績概要	・ ・ ・ p	3
II. 経営ビジョン	・ ・ ・ p	6
III. 強靱な経営基盤の確立	・ ・ ・ p	8
III-1. 安定収益の拡大	・ ・ ・ p	11
III-2. 組織運営の効率化	・ ・ ・ p	19
IV. アジアを代表する証券グループへ	・ ・ ・ p	23
Appendix 主要部門方針	・ ・ ・ p	27

I . 業績概要

Daiwa Securities Group

I. 業績概要

大和証券グループ 2010年度 連結業績概要

■ グループ連結の経常損益は▲326億円、純損益は▲373億円と、収支構造に大きな課題を残した

連結業績概要

(単位:百万円)	FY2009	FY2010	前年度比
営業収益	537,915	403,042	-25.1%
純営業収益	458,105	318,564	-30.5%
販管費	362,844	363,919	0.3%
経常利益	102,917	-32,602	-
純利益	43,429	-37,331	-
総資産	17,155,345	16,842,411	-
純資産	1,017,528	921,398	-
自己資本	927,163	833,932	-
EPS(円)	26.41	-21.90	-
BPS(円)	530.27	496.76	-
ROE	5.3%	-	-

※ 自己資本=株主資本+その他の包括利益累計額

セグメント別経常利益

(単位:百万円)	FY2009	FY2010	前年度比
リテール部門(注1)	40,475	41,866	3.4%
グローバル・マーケット部門(注2)	-14,126	-52,173	-
グローバル・インベストメント・バンキング部門(注3)	9,274	-14,733	-
アセット・マネジメント部門(注4)	11,196	15,948	42.4%
投資部門(注5)	66,243	-21,476	-
その他(注6)	-7,336	-8,140	-
調整前 計	105,727	-38,708	-
調整	-2,809	6,106	-
連結 計	102,917	-32,602	-

■各部門の主要会社は以下になります。

(注1) 大和証券、日の出証券

(注2) 大和証券キャピタル・マーケット(グローバル・マーケット部門)

(注3) 大和証券キャピタル・マーケット(グローバル・インベストメント・バンキング部門)、Daiwa Corporate Advisory Partners、Sagent Advisors Inc.※

(注4) 大和証券投資信託委託、大和住銀投信投資顧問※、大和リアル・エステート・アセット・マネジメント、大和ファンド・コンサルティング

(注5) 大和PIパートナーズ、大和証券SMB/CI、大和企業投資

(注6) 大和証券グループ本社、大和証券キャピタル・マーケット(資金等)、大和総研HD、大和総研、大和総研BI、大和証券ビジネスセンター、大和プロパティ、大和サンコー

※ 持分法適用会社の利益については、当該会社の当期利益に持分比率を乗じ、経常利益に計上しています。

2010年度 決算 ハイライト

- 純営業収益は3,185億円 前年度比▲31%
受入手数料2,186億円(▲14%), トレーディング損益924億円(▲17%), 営業投資有価証券関連損益▲172億円
- 販売費・一般管理費は3,639億円 前年度比+0.3%
取引関係費703億円(+14%), 人件費1,602億円(▲6%)
- 経常損益は▲326億円、純損益は▲373億円
- 「リテール部門」、「アセット・マネジメント部門」は増益
- 「グローバル・マーケット部門」、「グローバル・インベストメント・バンキング部門」、「投資部門」は経常損失を計上
- 第4四半期の主な損失
震災後のマーケット変動に伴う影響 約▲180億円
その他特殊要因 約▲180億円

Ⅱ. 経営ビジョン

Daiwa Securities Group

2つのビジョン

① - 強靱な経営基盤の確立

リーマンショック並みのストレス環境下においても
収支均衡を維持する収支構造の確立

② - アジアを代表する証券グループへ

「日本を含むアジア」をマザーマーケットとし
日本とアジアの成長市場を結ぶことで中期的成長を実現

Ⅲ. 強靱な経営基盤の確立

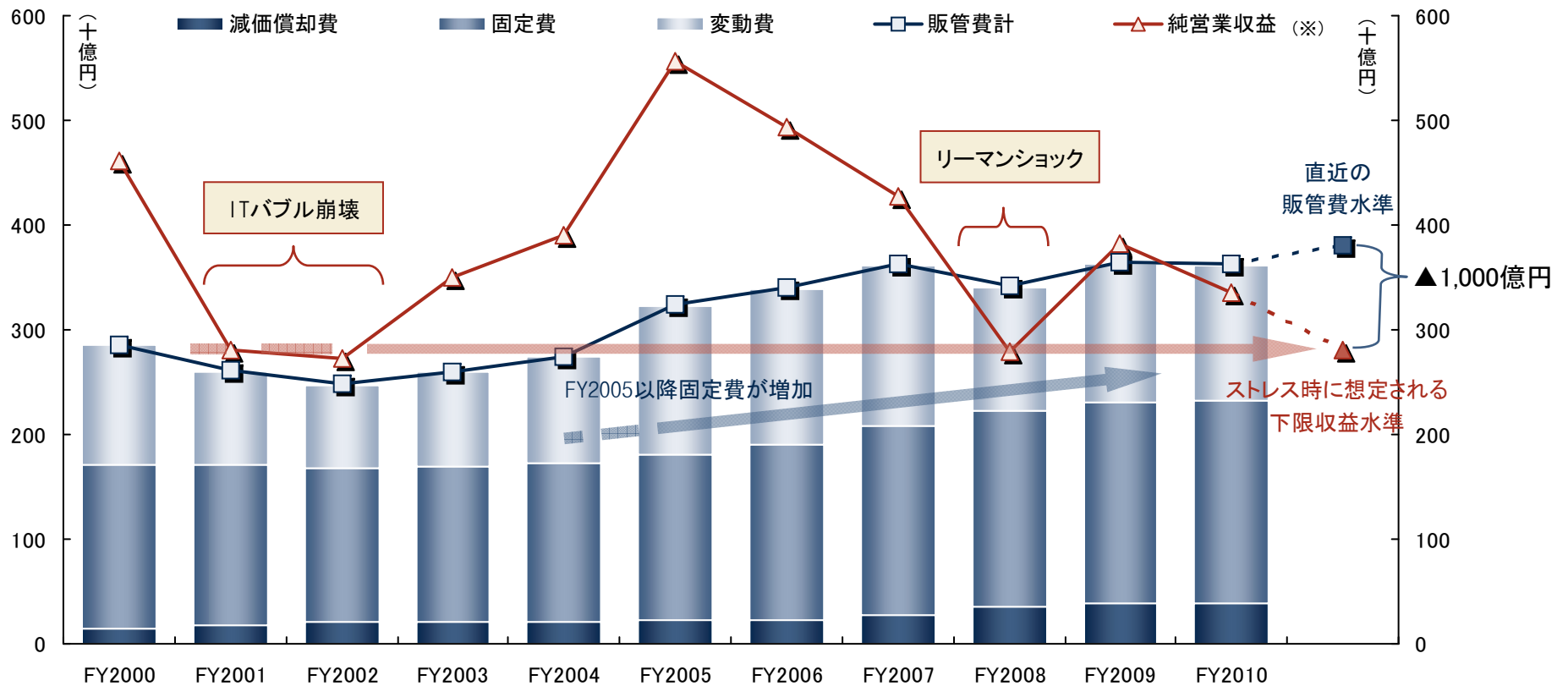
Daiwa Securities Group

Ⅲ. 強靱な経営基盤の確立

大和証券グループの収支構造

- 2000年度以降の連結業績推移よりストレス下における下限純営業収益は2,800億円前後の水準が想定される
- 一方で販管費は固定費の上昇により現状では約3,800億円前後まで増加
- ストレス下でも収支均衡を保つ強靱な経営基盤の確立には、約1,000億円の収支構造の改善が必要

連結業績推移



(※) 営業投資有価証券関連損益を除く

1,000億円の収支構造改善へ向けた2つの柱

- 安定収益の増収600億円と組織運営の効率化による400億円の収支改善を通じて、強靱な経営基盤を確立

第1の柱 安定収益の拡大

- ✓ 株式投信や銀行預金を中心に顧客基盤を拡大し、ストック性収益で600億円規模の増収

施策①
大和ネクスト銀行
預金残高拡大

施策②
大和証券
株式投信残高拡大

施策③
アセット・マネジメント
運用資産残高拡大

第2の柱 組織運営の効率化

- ✓ 最適な人員配置及び販管費の圧縮を通じた400億円の収支改善

施策①
本社機能の集約と
営業部門への人員シフト

施策②
システム・不動産費を中心に
ベース販管費の圧縮

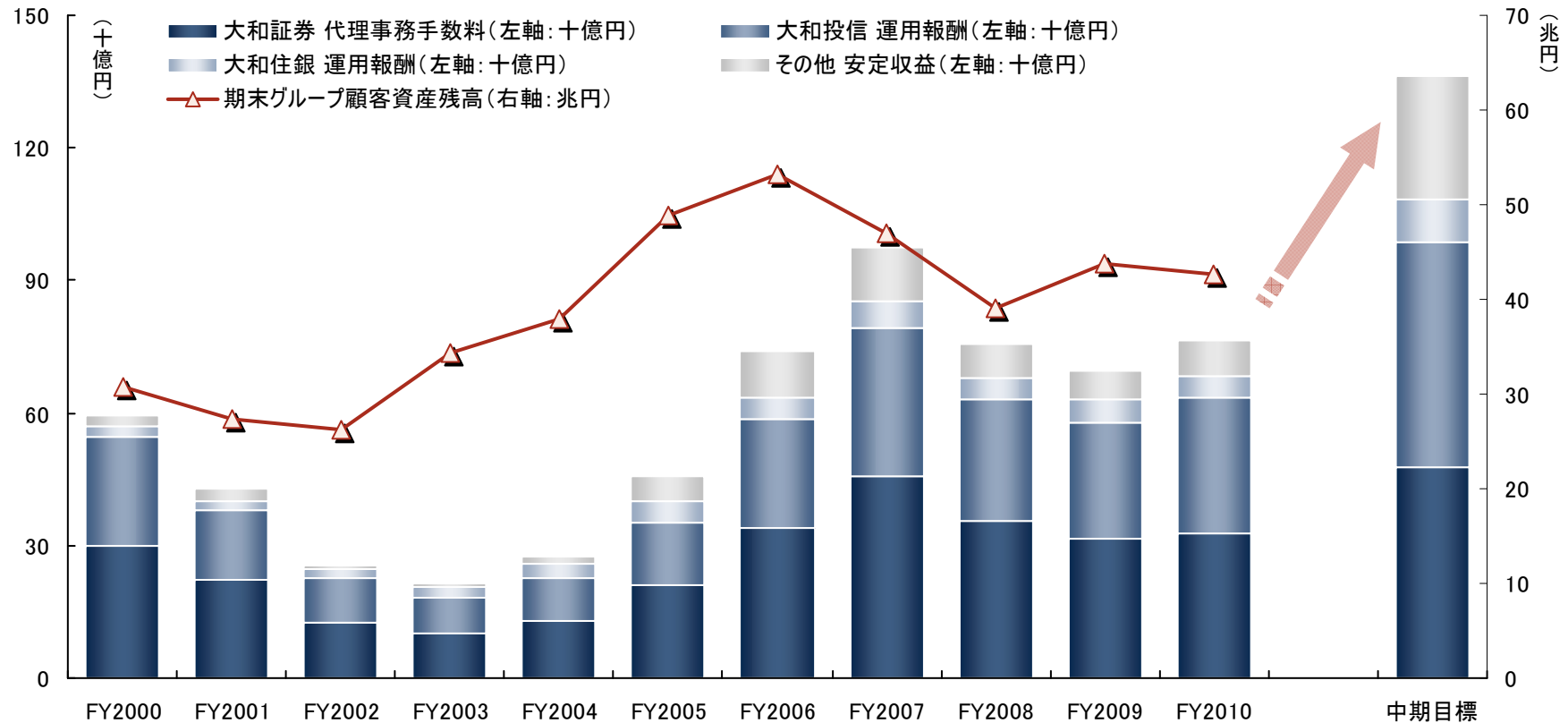
強靱な経営基盤の確立

～Ⅲ. 強靱な経営基盤の確立～
第1の柱 安定収益の拡大

顧客資産残高と安定収益

- FY2003以降、顧客資産残高の拡大を反映し、安定収益の水準が上昇したが、近年は横這い状況
- 顧客資産の拡大を通じた更なる安定収益の拡大が最重要課題

グループ安定収益(※)推移

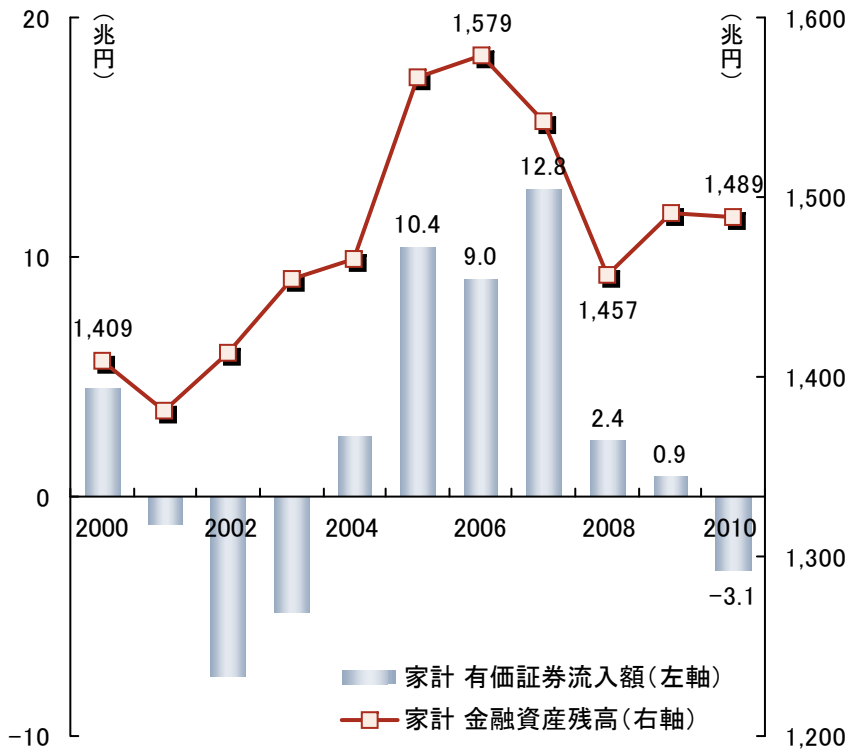


(※) 安定収益: 大和証券代理事務手数料 + 大和投信・大和住銀運用報酬(委託者報酬 - 支払手数料 (大和住銀の場合 × 出資比率)) + その他安定収益(信用金利、LMS、ラップ)

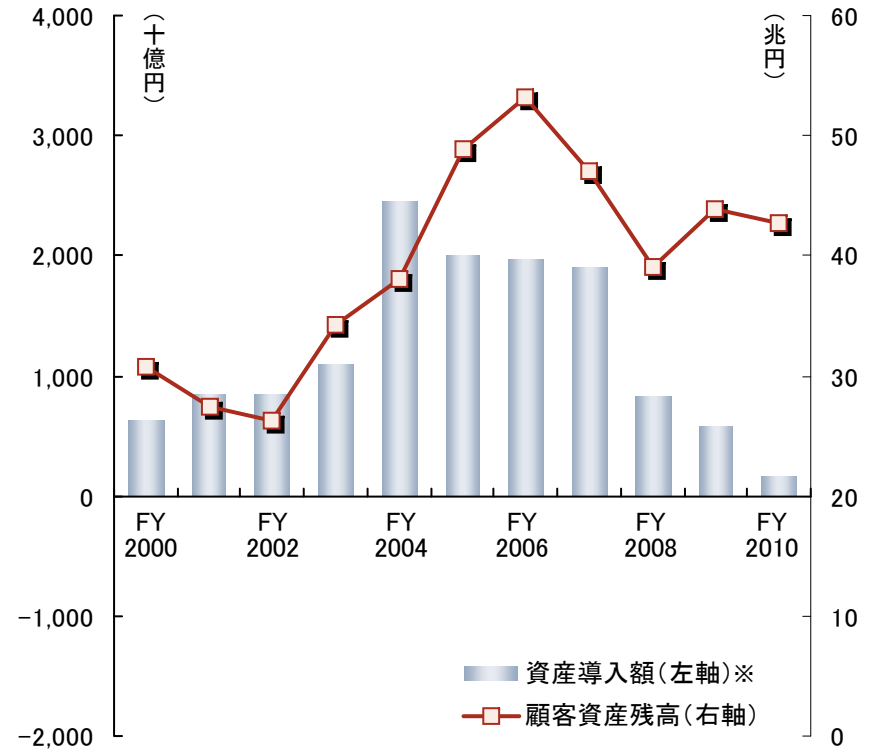
顧客資産拡大へ向けた現状認識

- 直近数年間は家計の金融資産残高が伸び悩むとともに「貯蓄から投資へ」の資金流入も停滞
- 大和証券グループの顧客資産残高及び資産導入額も同様の推移

家計 金融資産推移



(当社)顧客資産残高及び資産導入推移



出所: 日銀資金循環統計より大和証券グループ本社作成(有価証券: 株式+株式以外の有価証券)

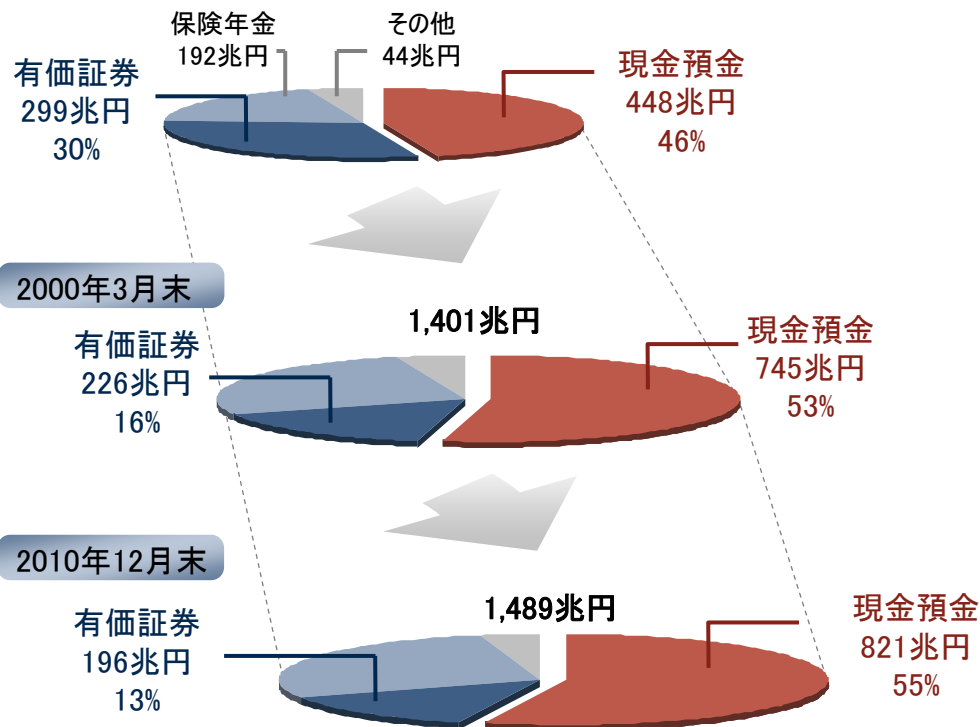
※分配金による入金を除く

家計の貯蓄性資金動向

- 超低金利が継続する中でも、家計の貯蓄性資金の多くは預金に滞留
- 有価証券全体への資金流入は限定的であるものの、株式投信への流入は堅調に推移
- 顧客資産の拡大へ向け最大のターゲットは①個人預金と、資金流入が続く②株式投信

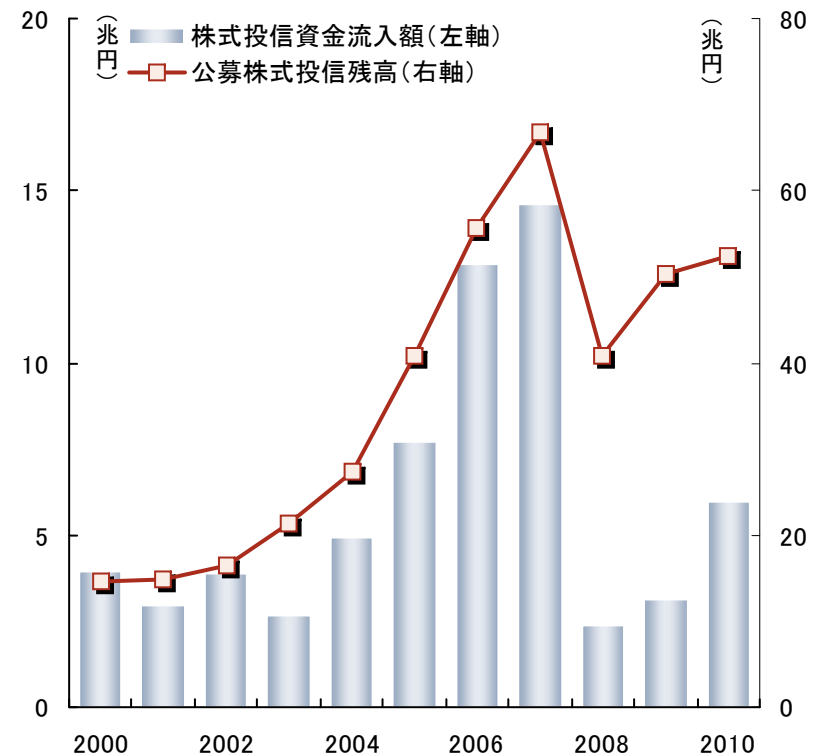
預金に滞留する家計金融資産

1990年3月末 国内家計金融資産：982兆円



出所: 日銀資金循環統計より大和証券グループ本社作成

株式投信への継続的な資金流入



出所: 投資信託協会 契約型公募投資信託の資産増減状況(株式投信)

個人預金へのフォーカス — 大和ネクスト銀行設立 —

- 大和ネクスト銀行の設立により銀行業参入(5/13よりサービス開始)
- インターネット銀行ならではのローコスト運営を活かした好金利預金を提供
- オンラインチャネルに加えて、大和証券が代理店となることで対面チャネルにおいてもサービスを提供

主なサービス内容

預金残高目標

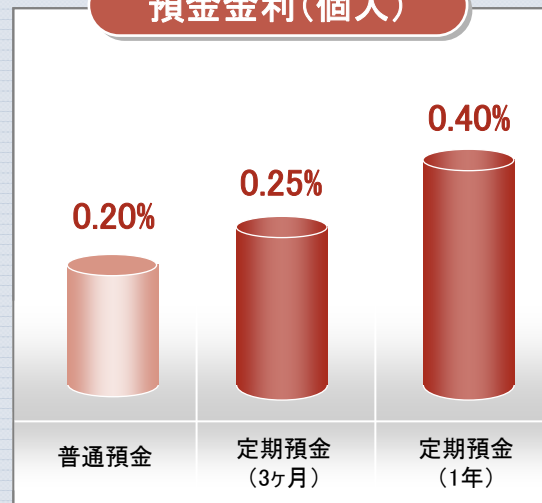
サービス開始時(5/13～)

- 普通預金
- 定期預金
- 振込
- スweepサービス
銀行口座⇔大和証券の証券口座
のスムーズな連携

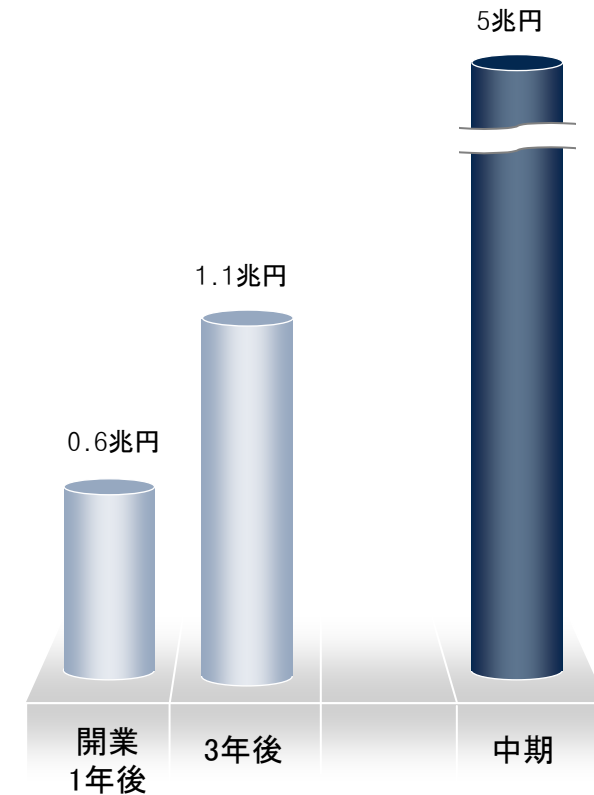
順次投入予定(1年後目処)

- 外貨預金
- 譲渡性預金
- 口座振替・総合振込
- 個人向けローン
ネットローン、目的別ローン

預金金利(個人)



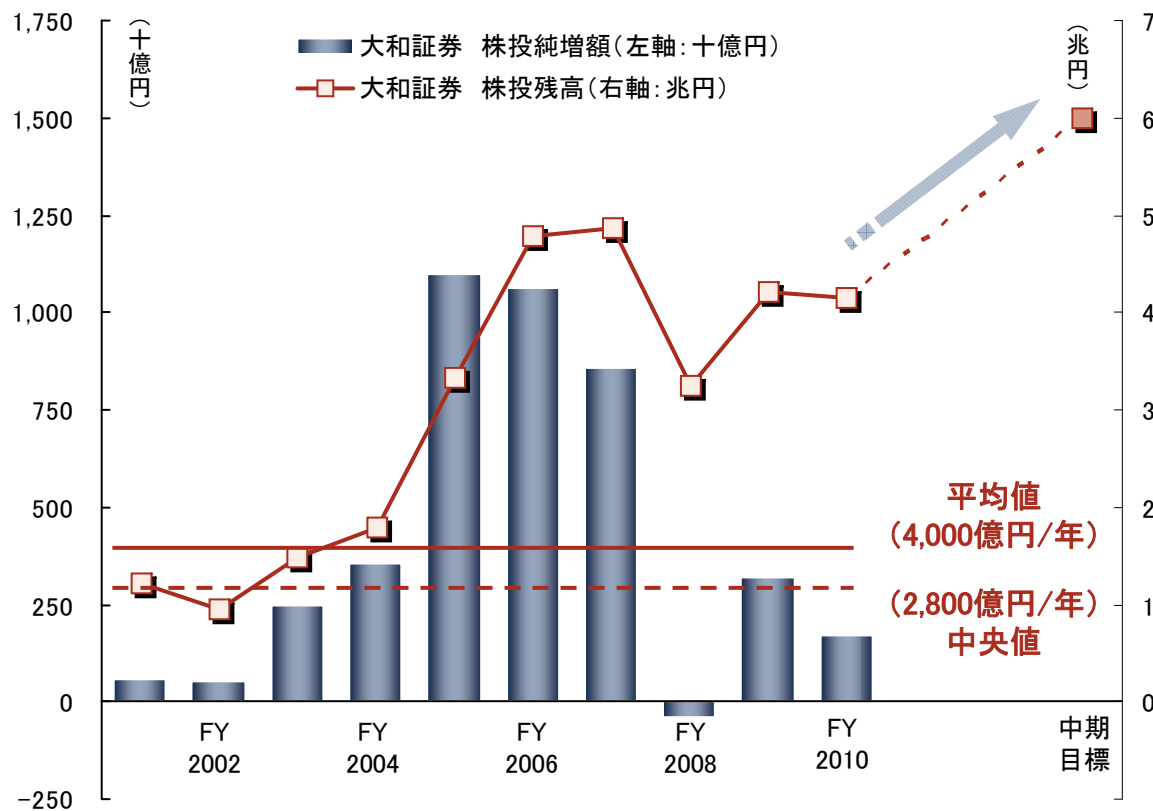
- ・金利は年利・税引前の表示
- ・2011年5月12日現在の予定金利
- ・金融情勢に応じて金利等の条件を変更する場合があります



株式投信へのフォーカス — 大和証券 —

- 大和証券の過去10年間に於ける株式投信純増額の平均値は4,000億円/年、中央値は2,800億円/年
- 今後6兆円規模への残高拡大を図る(現在約4.1兆円)

株式投信 純増額推移



残高拡大へ向けた取り組み

毎月分配型ファンドへ引続き注力

特徴あるテーマ型ファンドの投入

- Ex) ダイワ/ハリス世界厳選株ファンド(4月)

個人向け国債償還への対応

- 定額貯金と併せて今後数年間に予想される大量の償還・満期金への運用提案の強化
- 日本国債ファンド等を活用した、低リスク運用ニーズに対する対応

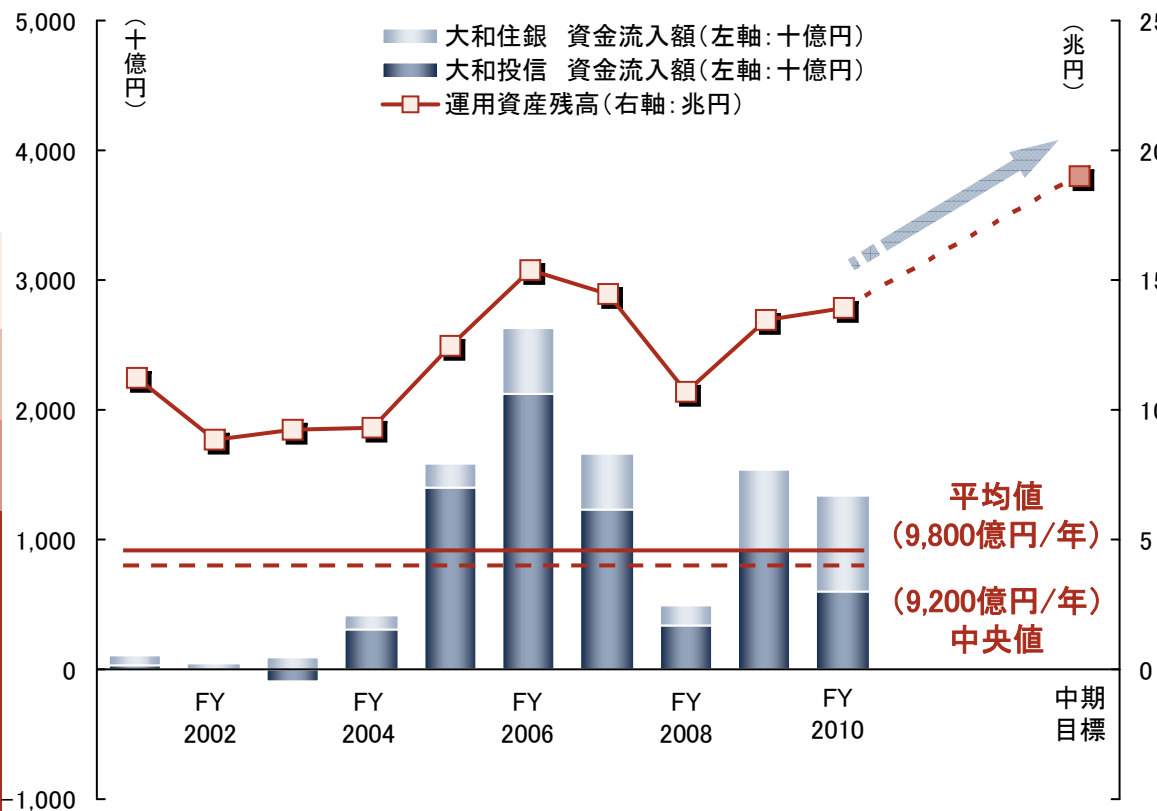
社内評価制度の改定

- 残高拡大をより評価する体系への変更

株式投信へのフォーカス — アセット・マネジメント部門 —

- アセット・マネジメント部門の過去10年間における運用資産残高純増額の平均値は9,800億円/年、中央値は9,200億円/年
- 今後19兆円規模への残高拡大を図る(現在約14兆円)

運用資産残高 資金流入額推移



残高拡大へ向けた取り組み

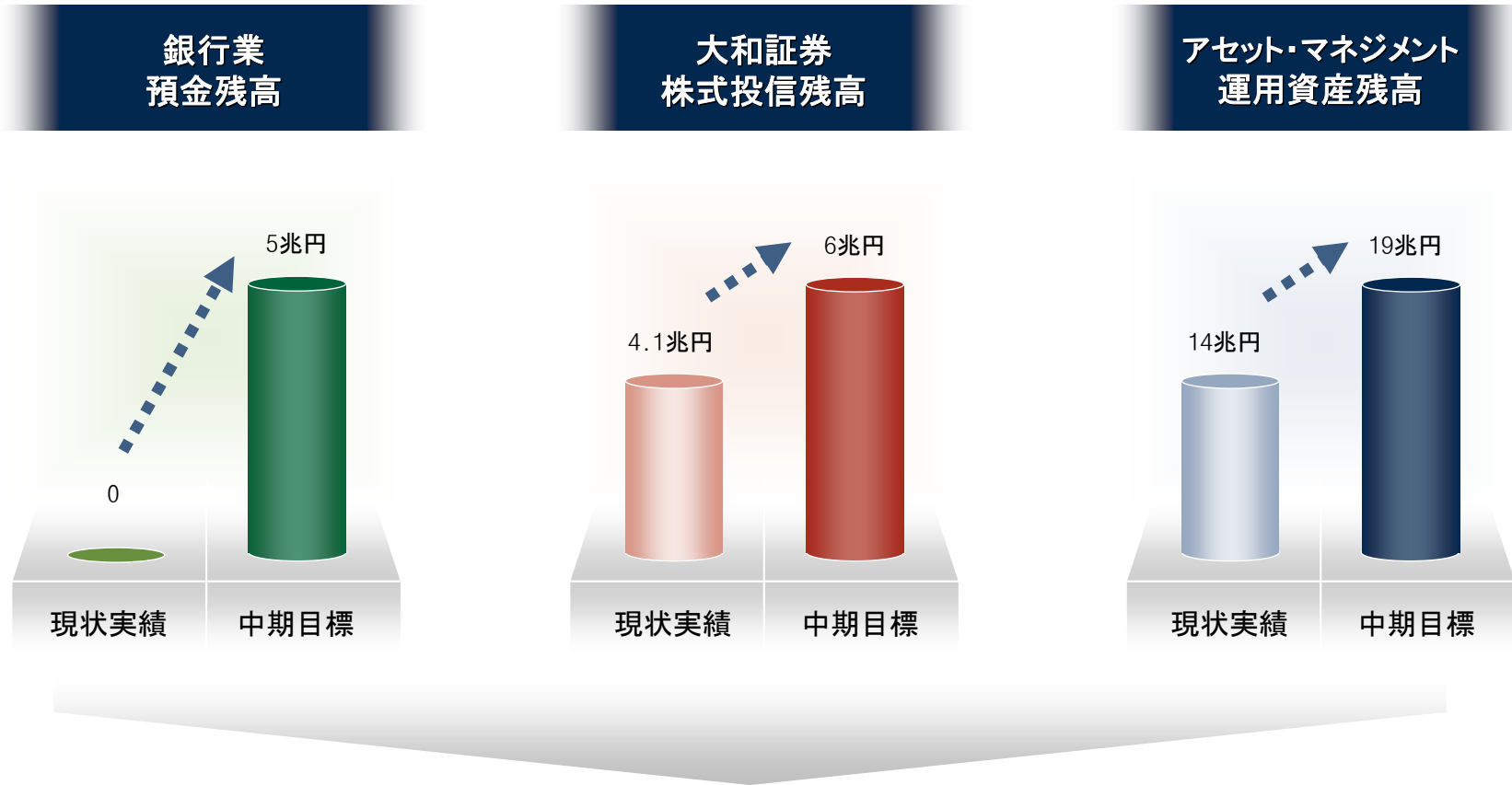
運用・販売体制強化

- アジア市場を中心としたグローバル運用及びリサーチ体制の強化・拡充
- 競争力のある新商品の企画・開発
- 投資家・販売会社のニーズを捉えたサポートの強化

大和リアル・エステート・アセット・マネジメント

- グループの新事業領域として不動産運用資産残高の拡大

安定収益600億円のイメージ



安定収益600億円拡大

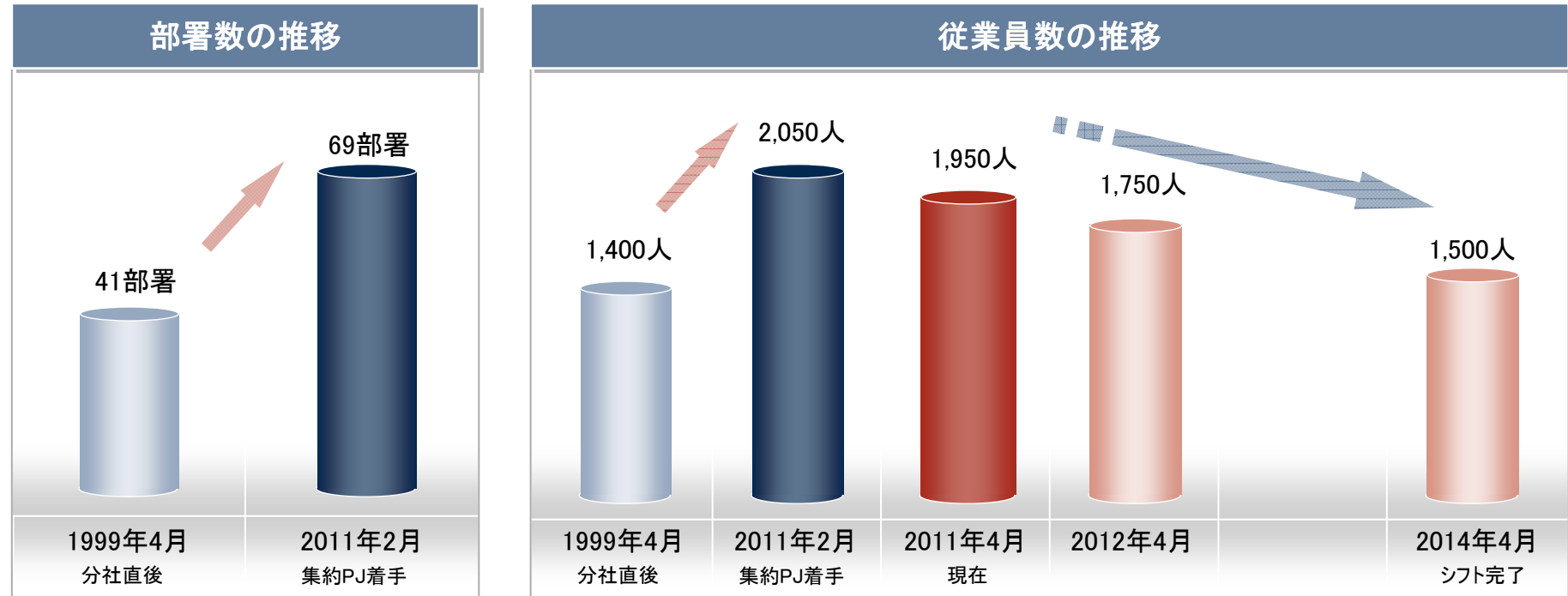
～Ⅲ. 強靱な経営基盤の確立～
第2の柱 組織運営の効率化

Daiwa Securities Group

ミドル・バック部門の集約・スリム化

- 1999年の分社化以降、本社のミドル・バック部門は部署数・人員数ともに1.5倍規模へ肥大化
- 2011年4月の人事異動から組織統合による業務効率化及び営業部門への人員シフトを開始

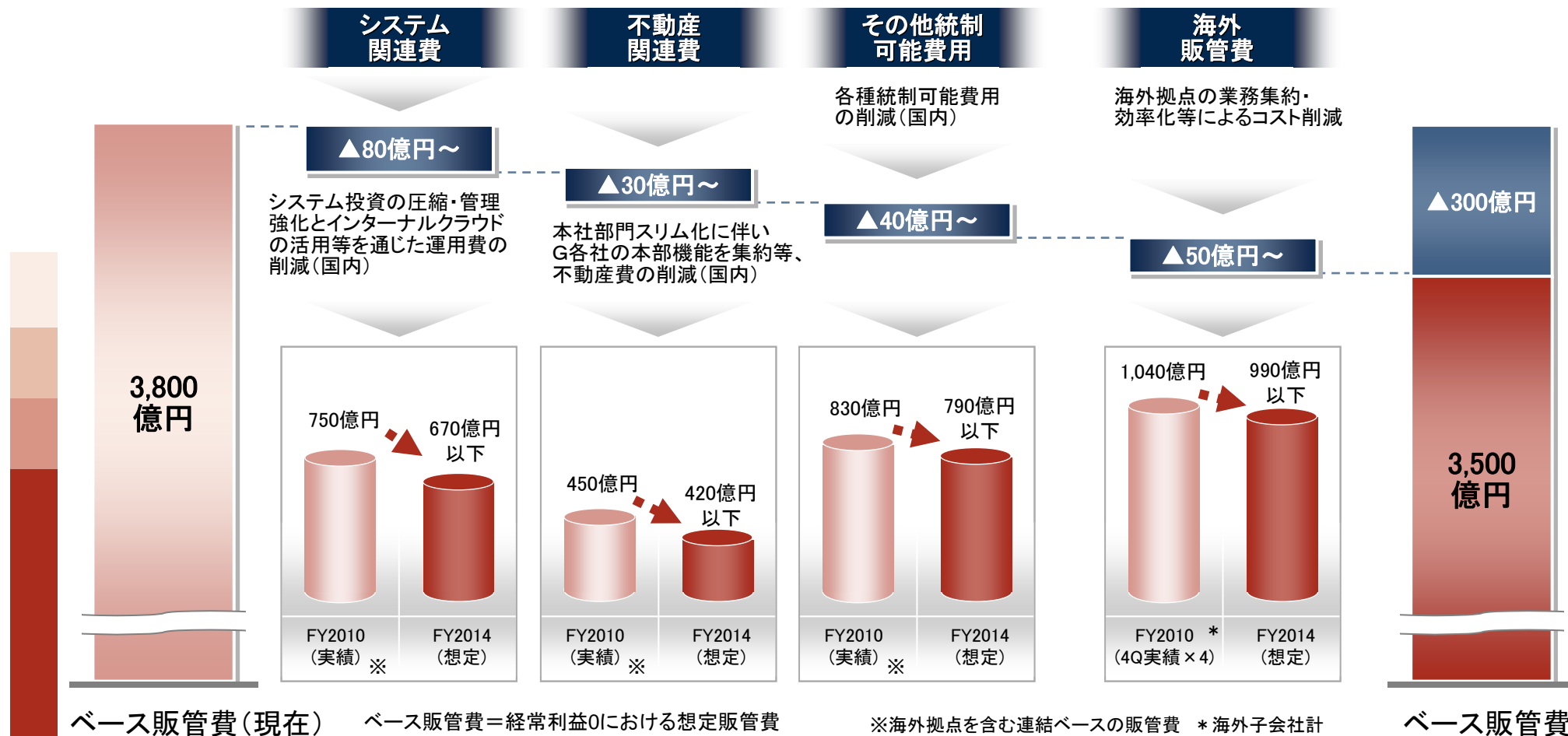
証券2社及び本社のミドル・バック部門^(※)



(※) 大和証券グループ本社、大和証券、大和証券キャピタルマーケットズの3社における、海外拠点駐在・出向者・留学生・休職者及び大和証券の営業部店、事業法人部、金融・公共法人部、PB部及び大和証券CMのフロント部門、プロダクト部門、金融証券研究所を除く従業員・部室

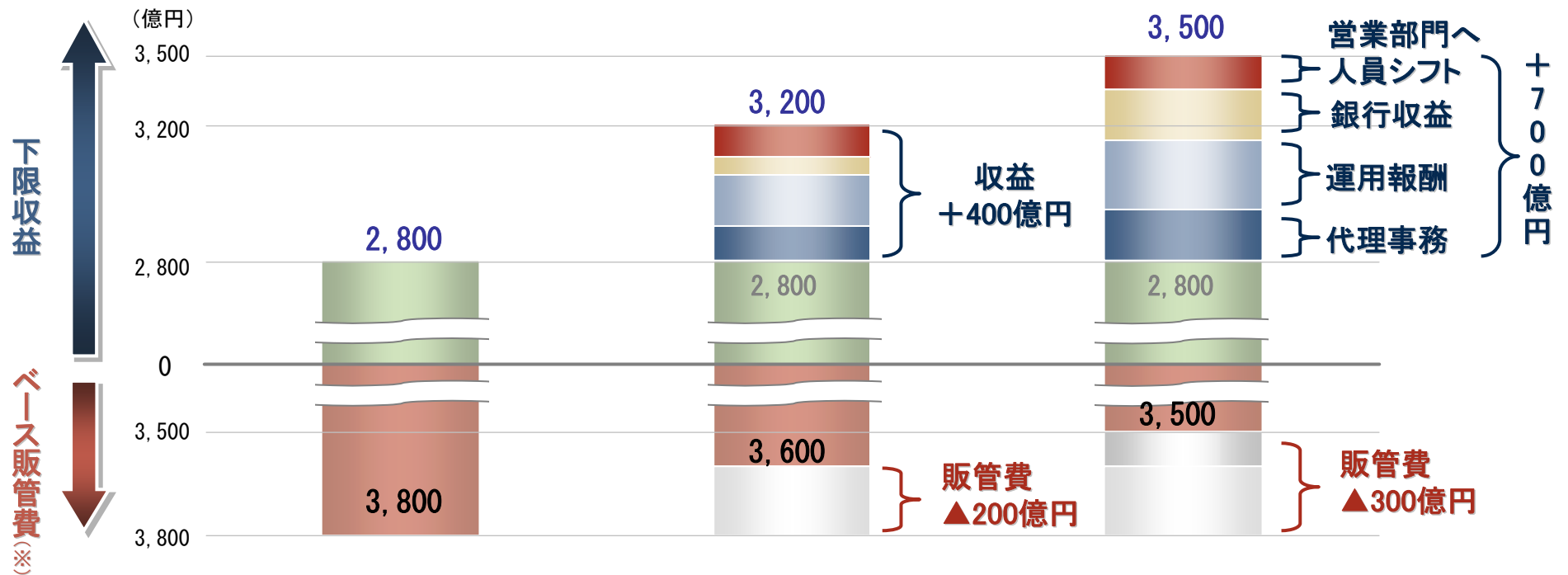
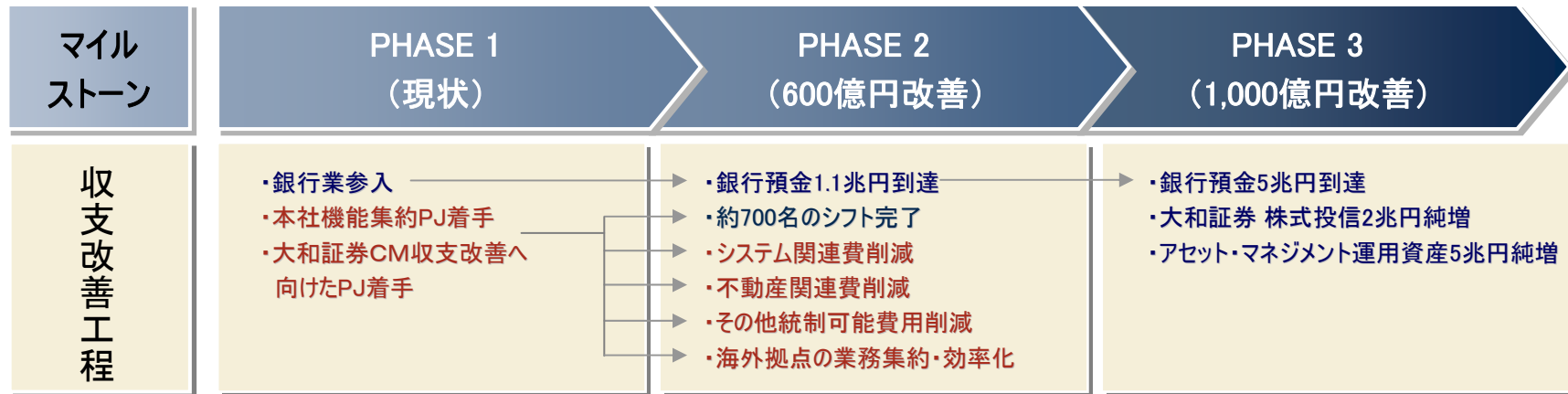
販管費削減へ向けた施策

- システム関連費や海外販管費を適切にコントロールし、ベース販管費を合計300億円削減



Ⅲ. 強靱な経営基盤の確立

強靱な経営基盤の確立へ向けた収支改善工程



(※) 経常利益0における想定販管費

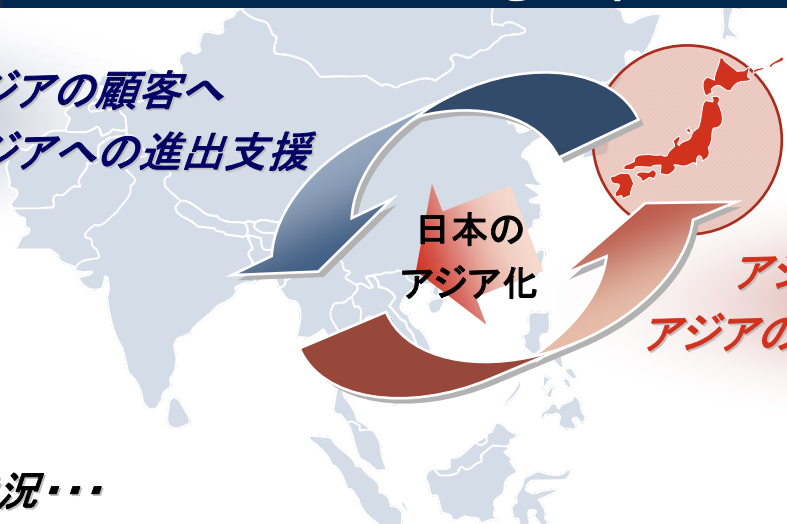
IV. アジアを代表する証券グループへ

Daiwa Securities Group

アジア戦略の進捗状況

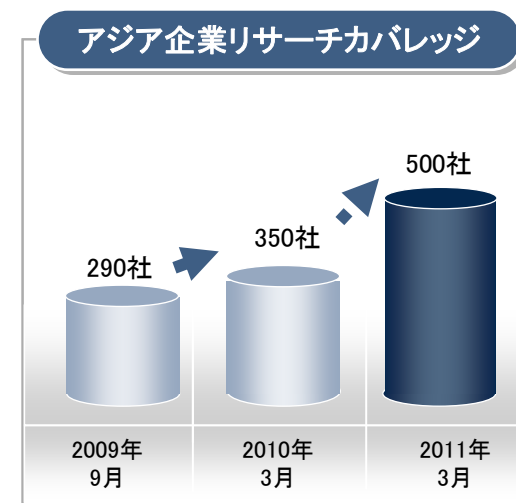
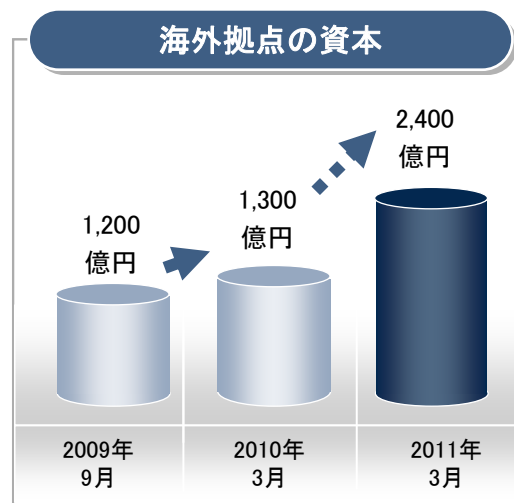
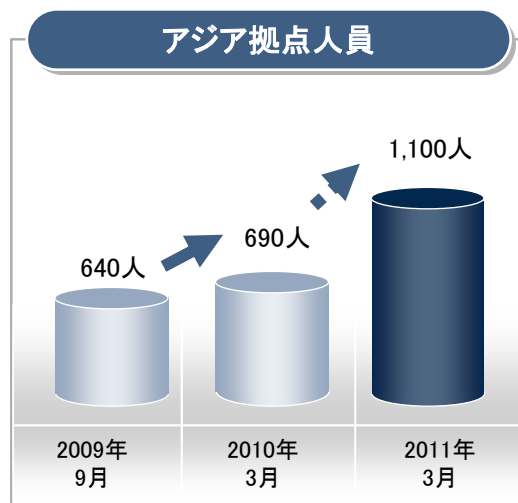
『Asia including Japan』

日本プロダクト ⇒ アジアの顧客へ
日本の企業・先端技術のアジアへの進出支援



アジアプロダクト ⇒ 日本の顧客へ
アジアの資金需要と日本の金融資産の架け橋

アジア戦略の進捗状況...

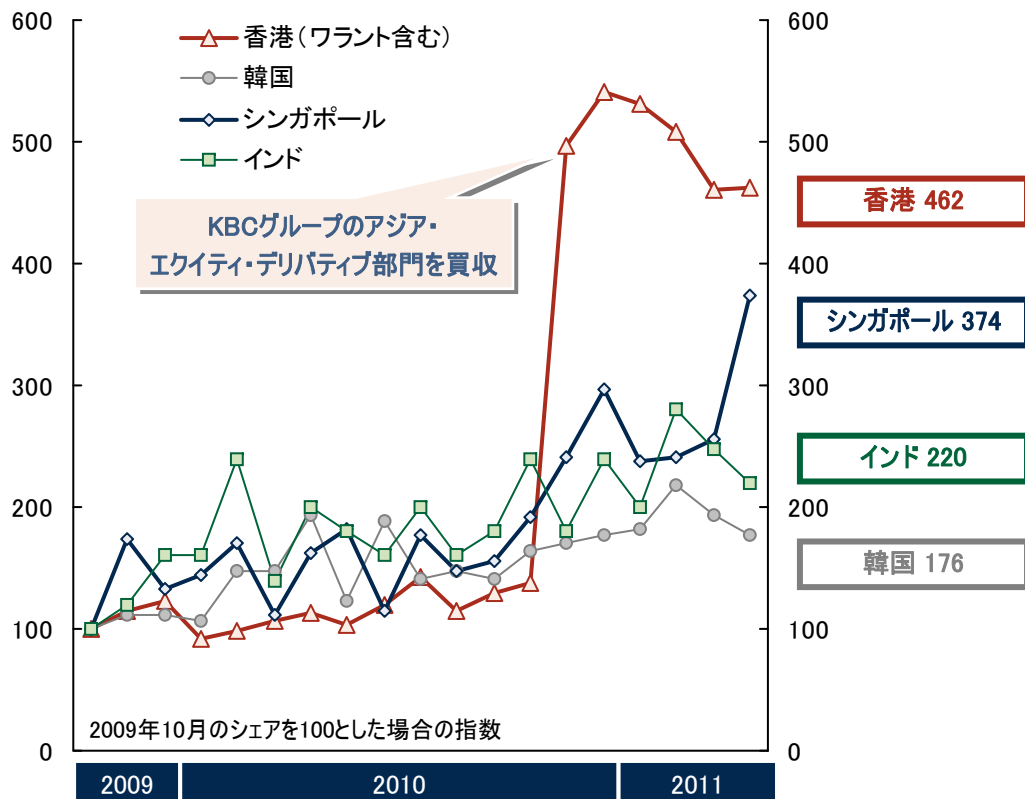


(※) 欧州・米州拠点を含む

アジアビジネスの拡大状況

- KBC買収後、香港の売買代金シェア(ワラント含む)は4倍水準へ
- 他のアジア各国市場においても売買代金シェアは順調に上昇
- IB部門においても体制整備が進んだことによりマニデート保有件数は着実に増加

株式市場売買代金シェア



IB実績

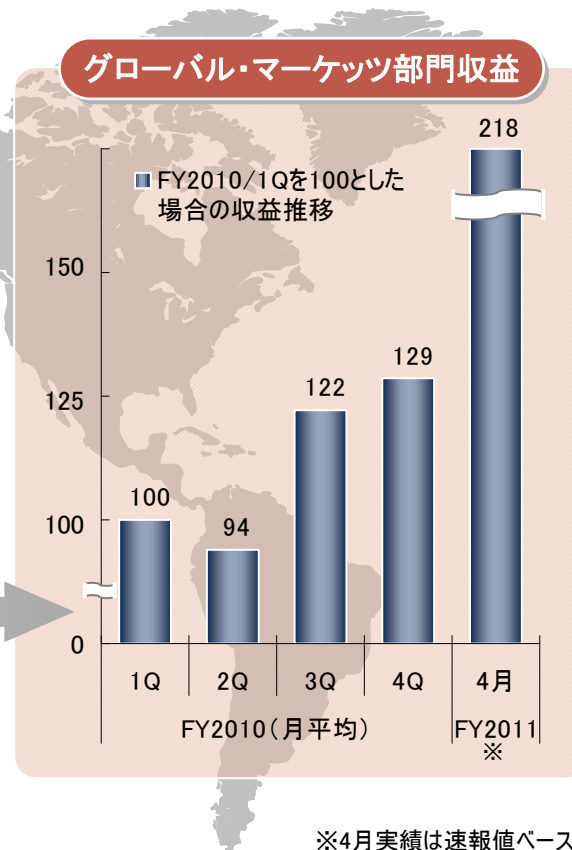
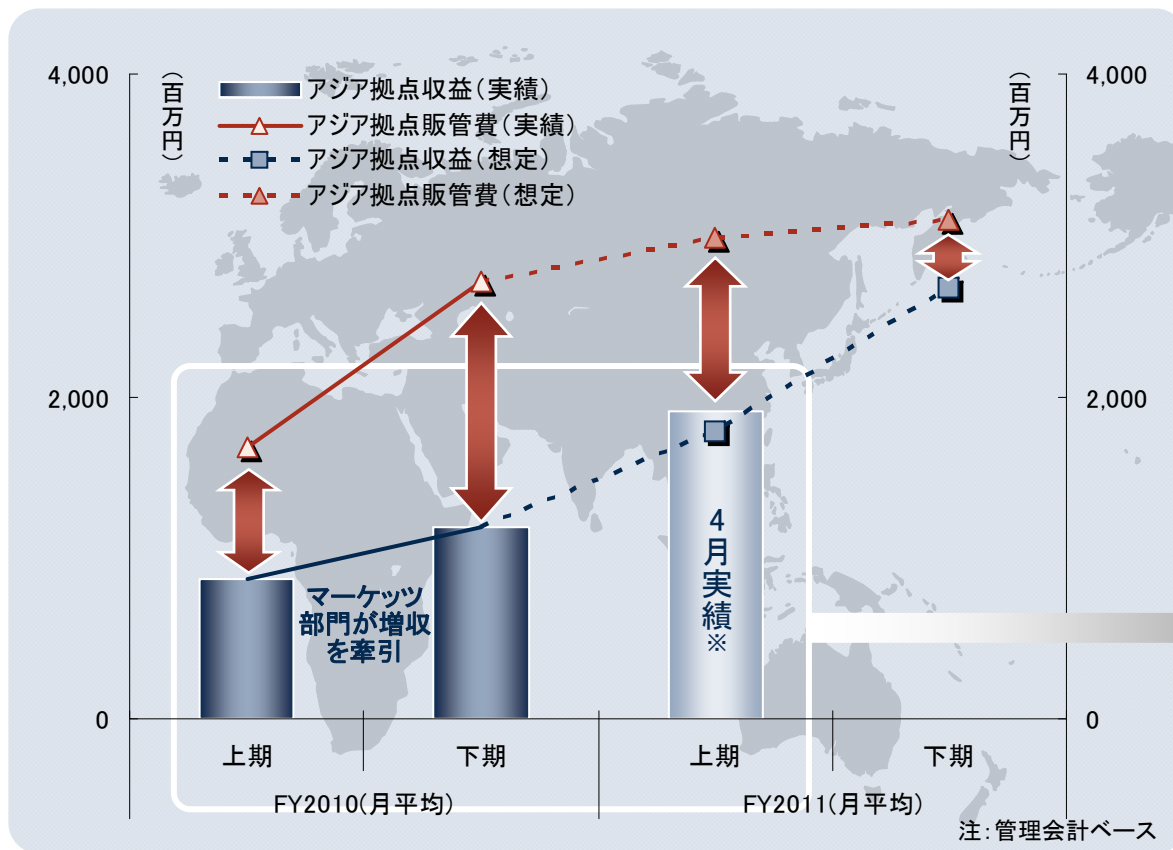
2011年の主な実績

2月	<ul style="list-style-type: none"> ■ エルピーダメモリ 台湾預託証券(TDR)共同主幹事 ▶ 日本企業初の台湾上場案件
3月	<ul style="list-style-type: none"> ■ ハチソン・ポート・ホールディングス・トラスト POWL共同事務幹事 ▶ シンガポール証券取引所における過去最大のIPO案件のPOWL
4月	<ul style="list-style-type: none"> ■ SBIホールディングス 香港預託証券(HDR)主幹事 ▶ 日本企業初の香港上場案件 ■ マレーシア大手医薬品メーカーHoepharma Holdings Sdn. Bhd.の大正製薬への売却 (売手側アドバイザー)

アジア拠点の収益・販管費推移

- アジア拠点のコスト増加は既にピークアウトし、2011年度より販管費は概ね横這いへ
- グローバル・マーケット部門に続いてFY2011はグローバル・インベストメント・バンキング部門の収益貢献が本格化

アジア拠点の収益・販管費推移及び想定



Appendix 主要部門方針

Daiwa Securities Group

リテール部門

■ 資産導入のペースアップを通じた「顧客基盤の拡充」と「安定収益の拡大」

2011年度 重点施策

○銀行代理店ビジネスへの参入

○株式投信営業の強化

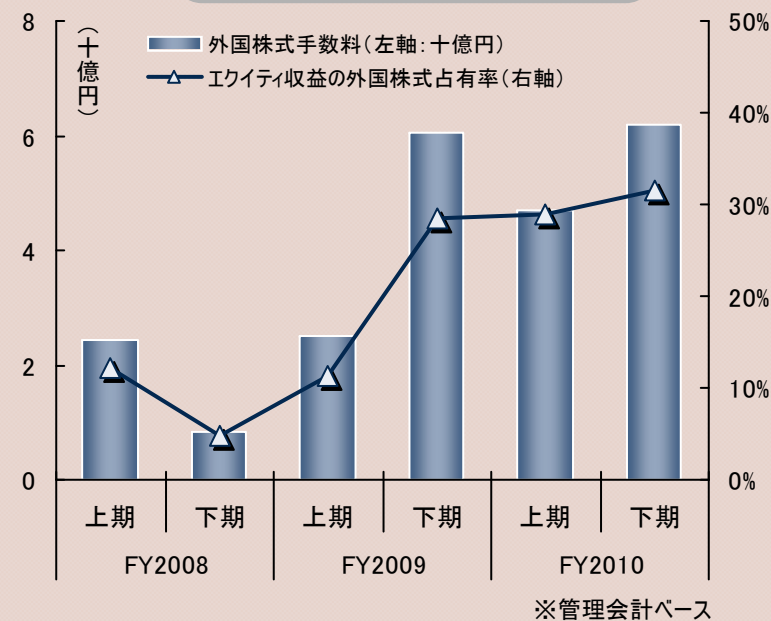
- ・グループ安定収益の「コア」となる代理事務手数料の伸長を目指し、引続き残高の積み増しに注力

○エリア・コンサルタント課の設置と新店舗戦略

- ・未出店地域における顧客基盤の拡大をミッションとする地域専任営業員を近隣支店に配置
- ・エリアマーケティングの精度を高め、出店を見据えた営業を展開

○外国株式取引の更なる拡大

外国株式収益推移



ホールセール部門

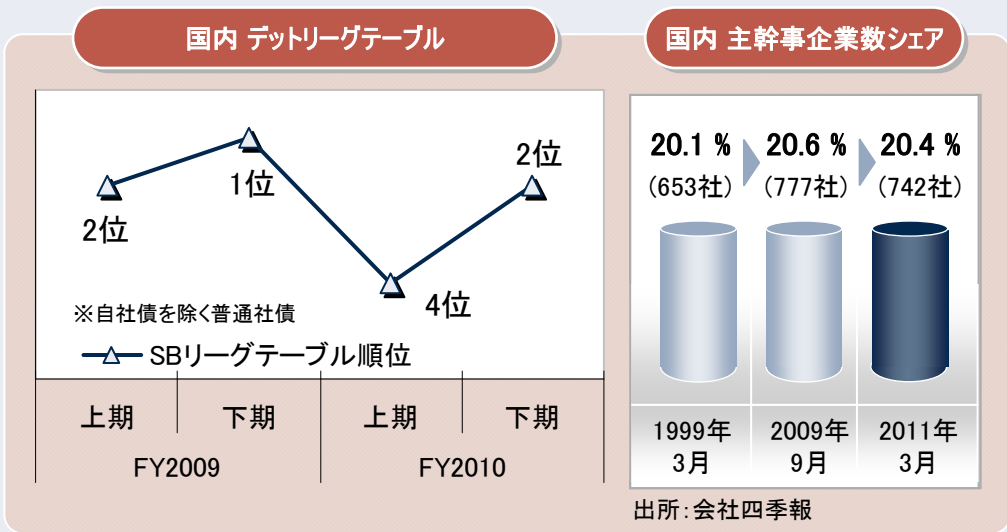
■ 「アジア関連収益の本格拡大」と「コスト管理の徹底」による赤字脱却

2011年度 重点施策

- グローバル・インベストメント・バンキング部門
 - ・アジアIB体制強化の継続
 - ・コア事業基盤強化の継続とリーグテーブル挽回

- グローバル・マーケット部門
 - ・エクイティ
アジア株取引拡大へ向けたサービスの強化
 - ・金融市場
グローバルなトレーディング体制の本格始動

- コスト管理の徹底
 - 収支管理体制の強化
 - ビジネスライン毎の採算性分析を通じ、ビジネスの選択と集中による収益性の改善を図る
 - グローバルビジネス管理体制の効率化
 - 海外拠点のミドル・バック部門を集約・統合し、コスト低減を図る



アセット・マネジメント部門

■ アジア市場を中心としたグローバル運用及びリサーチ体制の強化・拡大

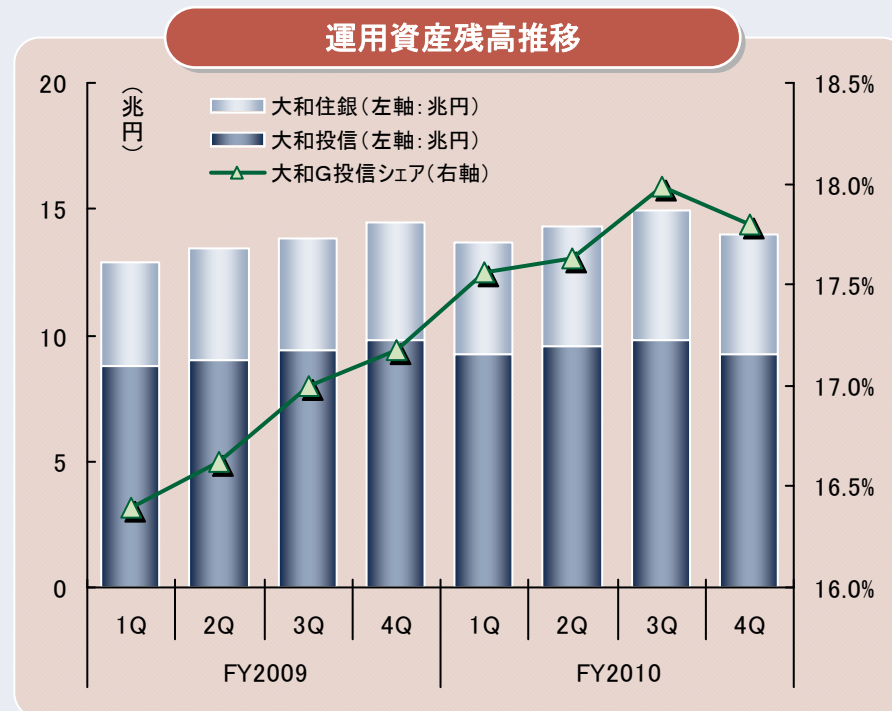
2011年度 重点施策

○グローバル運用・リサーチ体制の強化・拡大

- ・アジア市場を中心としたグローバル運用及びリサーチ体制の強化・拡充
- ・競争力のある新商品の企画・開発
- ・投資家・販売会社のニーズを捉えたサポートの強化

○大和リアル・エステート・アセット・マネジメント

- ・不動産運用残高の拡大による安定収益の増加
- ・投資家への魅力ある不動産運用商品の提供



その他の部門

投資部門

- 既存案件における投資回収の極大化
- マーケットに即した適切かつタイムリーな新規投資・ファンドレイズの実行
- リスク管理体制の強化とコスト管理の徹底

IT・シンクタンク部門

- シンクタンクとしての情報発信力の強化による、グループプレゼンスの向上
- 顧客価値の創造を支援するコンサルティングサービスの推進
- システム開発・運用体制の強化による、グループのグローバル戦略及びコスト効率化への貢献

Daiwa Securities Group

Centred on Asia. Serving the World.

大和証券グループ本社 IR室

TEL: 03-5555-1300 FAX: 03-5555-0661

E-mail: ir-section@dsgi.daiwa.co.jp

URL: <http://www.daiwa-grp.jp/ir/>